

今年度の取組の方向性を打ち出しましょう。

4月18日の全国及び県学力・学習状況調査の実施に当たっては、大変お世話になりました。今年度も各学校における学力向上の「指令塔」として、組織的・効果的な取組の推進をよろしく申し上げます。

さて、学力・学習状況調査は、結果から児童生徒の現状を把握 (Research) することが大切です。児童生徒自身や学校のこれまでの取組の検証と、学力低位層への積極的な支援など今後取り組むべきことを焦点化 (Target) した計画 (Plan) を全職員で実行 (Do) しましょう。また、結果が返却される前にも、全国調査の自校採点を基に、つまずき解消に必要な取組を推進いただくようお願いします。

学力向上担当者として、これまで効果的であった取組の継続や、調査結果を基にした新たな取組など、今後の指導計画を管理職と相談の上、具体的に全教職員に示すことができるよう準備を整えましょう。

客観的データに基づくR-T-PDCAサイクルで学力向上を図りましょう。

効果的な取組を行うために、調査結果を基に、児童生徒の学力及び学習状況について、多面的・多角的な分析を行い、実態を把握することが大切です。

当該年度内の学習内容の着実な定着に向け、補充学習の充実など必要な修正を行いましょう。

県教委作成の教材や、市町村独自調査などを活用し、取組の効果を検証する機会を設けましょう。

示された計画については、全職員が一丸となって「徹底」して取り組むことが何より大切です。取組の様子が見える化したり、効果の見られた取組を紹介し合う場を短時間でも設定したりするなど、児童生徒、教職員が意欲を継続できる工夫を図りましょう。



学力低位層のための取組や経年的に学習定着度に課題がある設問に優先的に取り組みましょう。

管理職と相談の上、1学期の取組、1年間の取組の2つの視点から具体的な指導計画を示しましょう。

年度当初は、R、T、Pの充実を図りましょう。



今年度から新たな岡山県学力・学習状況調査となり、次のことができるようになります。

- 1 結果返却は6月を予定しており、夏季休業中の課題や補充学習に生かすことができる。
- 2 低学年から、つまずき発見、経年的・継続的な指導が立案できる。
- 3 中学校2年生からは、英語の学力の状況を把握し、指導の充実が図れる。